




## 審 査 結 果 の 要 旨

報告番号	乙 第 <b>2789</b> 号	氏名	古場 千春
審 査 担 当 者	主 査	桑野 剛一	
	副主査	斎場 浩	
	副主査	中島 収	
主論文題目： Determination of Candida species nestled in denture fissures (義歯の割れ目にカンジダ菌は存在する)			

### 審査結果の要旨（意見）

本論文は、義歯装着者において、義歯がカンジダ (*Candida albicans*, *C. glabrata*, *C. tropicalis*, *C. parapsilosis*) の定着部位になることを義歯床内の培養、および電子顕微鏡による観察で明らかにした。とりわけ、カンジダが義歯の割れ目等に定着することを見出した。本結果は、義歯装着した高齢者が誤嚥性肺炎を発症した場合、起因菌の一つであるカンジダが義歯由来である可能性を示唆している。さらに、誤嚥性肺炎予防のために、義歯の十分な清掃、難治例では義歯の換装等を勧めている。

以上、本研究は義歯装着の高齢者の誤嚥性肺炎の原因として、義歯に定着したカンジダの可能性を示唆し、さらに義歯清掃の予防法等を示すとともに、高齢化社会における医療福祉への貢献を期待できる論文であり、学位論文として高く評価できる。

### 論文要旨

高齢者の増加に伴い、誤嚥性肺炎患者が増えている現状がある。その起因菌の一つとしてカンジダ菌が指摘されている。呼吸器真菌症の起因菌の約15%は *Candida albicans* であり、誤嚥による可能性を示唆した症例もあることから、口腔ケアではカンジダ菌に対する対処が必要と考える。義歯の材質（レジン）は吸水性があり、カンジダ菌は付着しやすく、カンジダ菌の培地になりやすい。これまで義歯床内のカンジダ菌の存在についての報告はなかった。今回義歯装着患者における口腔カンジダ症の病変部および義歯床内外のカンジダ菌の存在を明らかにし、さらに義歯床内を電子顕微鏡を用いて観察したので報告する。方法はカンジダ菌の存在の有無とその分離株の同定を行い、次に義歯床レジンにカンジダ菌を植え付け培養し、電子顕微鏡による超微形態学的観察も行った。カンジダ菌の検出は病変部、義歯内面、深層であり、検出されたカンジダ菌の種類は *Ca. albicans*, *Ca. glabrata*, *Ca. tropicalis*, *Ca. parapsilosis* の4種であった。電子顕微鏡において、未重合された樹脂基材部位あるいは義歯のマイクロクラック部位にカンジダ菌を確認した。結論として口腔内および義歯清掃を徹底的に行い、義歯のケアを行っても症状を反復する場合などは義歯の再作製を考慮すべきであると考えられた。